



クローバー牧場

クローバー航海記2

荒れた海をクローバーの船はゆつくりとゆつくりと
進んでいます。

シムは双眼鏡でまわりにいる船たちを見渡してみ
ました。

ああ、遠くにキツズの家船が見えるぞ。

あつちにもいる。

こつちにもいる。

双眼鏡をモリコーとミキテイに渡しました。

2人はキッズを見つけてニツコリとしています。

ああ、馬たちもみんなを見つけたようです。

クルリと耳を立てています。

目を丸くして、頭を高くしてみんなを見つめています。遠くにいるみんなをジツと見つめています。

（あ、あの子はいつも馬房掃除を一生懸命にやってくれる子だ）

（シムによく叱られている子もいるね）

（私によく乗ってくれる子！）

クローバーの馬たちは目を丸くして、耳を向けて

頭あたまを高くたかしてキッズのみんなをずっとずっと見つめ
たままです。

そのとき、甲板かんばんに寝ねそべっていたオリヨウが、ググツ
と起きお上がり、目めを大きくおおして空そらに顔かおを伸のばしま
した。

「ウウウーツ!! ウワン!! ワン!!」
突然とつぜん怒おこったように吠ほえ立たてて、しばらく空そらをにら
んでいました。

そして、またつまらなそうに甲板かんばんに体からだを伏うつせて目め
を閉とじました。

遠くでは、いくつかの小さな船が病院船に近づいていくのが見えます。

患者さんたちが乗り込んでいくようです。

船がぎしぎしときしむ音が聞こえてきます。

遠いのに、その音がはつきりと聞こえてきます。

空には黒い雲が立ちこめ、海の上を吹き渡るその風は、悪い風のようにです。

船からこんな声が聞こえてきます。

まだ船を強く漕ぎすぎなんだ。

船が速すぎなんだ。

波を立てすぎるから嵐が止まないんだ。

こんな声も。

でも、漕ぐのをやめたら私たちの船も沈んでしま
う。

大きな声も。

そうだ！漕がないでいたら波に吞まれてしまう！
遠くから。

オレはもうこんなせまい船に乗り続けるのはつかれ
たよ。さつさと船を進めて嵐を抜きたいものだよ。

力ちからのない声こえも。

それよりも非常食ひじょうしょくはどうなってるんだ。まだ届とどかないのか。もう船ふねを動うごかす力ちからも出でてこない。

船ふねに乗のる人たちの声こえがあちらこちらから響ひびいてきて、大おおきくなって海うみの上うえがさらにざわつきました。

その時ときです。

誰だれかが、遠とおくを指ゆびさして言いいました。

「島しまが見みえる！」

突然現れたその島は、荒れる海の上に広く大きくそびえ、横たわっています。

そして、なんと不思議なことでしょう。

その島のはるか向こうの空は白い小さな雲がポンポンと浮かび、空が青く見えるのです。

島の向こうには美しいおだやかな空が広がっています。

「嵐じゃない空だ！」

「青い空だ！」

「あの島を越えれば嵐を抜けられるぞ！」

あの島を目指そう。

誰が言うでもなく、人々は船の先を島に向かわせました。

おびただしい数の船が一齐にその島に向かいます。誰かがロープを病院船に投げ込みました。病院船を引っ張るためです。

ある船は病院船を後ろから押し始めました。

いくつもの船が同じことを始めました。

病院船はギンギンと音を立てながらみんなの力で進んでいきます。

クローバーの船も、キツズの家船もゆつくりとゆつくりと進んでいきます。

キツズのみんな

毎日をどう過ごしているかな？

お手紙をくれる人がいてうれしいよ。

勇気が湧いてくる。

コロナウイルスはまだしぶとくてなかなかおさまりそうにないようすだね。

でも、みんながお家の船にしつかり乗り続けていれば嵐のない空を見つけられるから、そのときまで

辛抱しよう。

辛抱って知ってるかな？シムのお友達が教えてくれた。

「つらさを（かなり長期間）じっと我慢する、またつらい仕事をじっと耐えて勤めること」と言う意味だそうだ。

シムたちも、今、クローバーでの毎日を辛抱しながらがんばっている。

みんなにとつては退屈なこと、つまらないことのオンパレードかもしれないけれど、それがどうした辛抱しろ！

つて強く言うよ。

辛抱しながら、自分がやるべき毎日の仕事をやり続けていくことだ。

そして、いつもは気づけなかつた小さな喜びや楽しみを見つけないさい。

がんばりなさい。

次回は、馬の様子を手紙に書こうかな。

ちなみにシムは今いま、ブツチに乗のつて調教ぢょうきょうしています。

(^0^)v

それでは、また！